

ダイコン「Y R翔太」の品種特性と 現地栽培事例



雪印種苗株式会社 東北事業部

技術顧問 **長根 強**

はじめに

当社ではこのたび、夏播きダイコンとして「Y R翔太」(試作系統名S B 7013)を新発表いたしましたので、その特性についてご紹介いたします。

また、現地栽培として、岩手県川井村門馬地区・去石倉蔵氏の栽培事例を併せて紹介いたしますので参考に供して下さい。

1 「Y R翔太」の特性

＝萎黄病の汚染地帯に最適・冷涼地・一般地の夏播きダイコン＝(表1)

1) 生育

根の太りは涼太並みか、やや遅めですが良好な生育を示します。根長は33~35cm、根径7cm、根重1.2kg程度に育つ青首総太りダイコンで、尻づまりも良好です。

2) 草姿・草勢

草姿はコンパクトでやや立性、葉色はやや濃緑、

ウイルス症状には中程度、Y Rくらまよりやや弱い。草勢はおとなしい方で作りやすい。

3) 抽苔・青首・肌・根形

抽苔はY Rくらまより晩抽性でやや遅い。青首部の着色程度は涼太、Y Rくらま 耐病総太りより濃い。肌はなめらかで照りがあり奇麗に仕上がる。また、根形は猷夏青首タイプで総太り型でよく揃う(写真1)。

4) 生理障害

空洞症や裂根、黒変症はほとんど発生しないが、高温期の平場産地では注意する必要がある。

5) 耐病性

特に萎黄病抵抗性品種で、涼太など萎黄病にかなり栽培できない場面で、その特性が発揮される。また軟腐病に対しても強い方である。

2 作型と栽培のポイント

当社品種「涼太」より播種期幅が狭いので、地域での播種適期を図1によりつかんで栽培します。

むやみな早播きは抽苔、生理障害を助長し、遅播きは短根になりやすいので注意します。

作型的には、冷涼地・高冷地での夏播き、一般地での晩夏播きに適する品種です。

2) 栽培のポイント

(1) 露地栽培の場合

一般病害虫を除き、生育前期(播種後20日目)と生育後期(播種後40日目)の2回、ウイルス対策としてアブラムシ防除に努めます。また、本葉5~6

表1 Y R翔太の特性露地栽培 (雪印種苗・中央研究農場 <北海道・長沼町>)

品種名	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (kg)	根形	揃い	尻づまり	肌	青首	す入り
< H 6年 7月11日播種 9月2日調査 >									
Y R翔太	35.3	7.4	1.25	4.0	7.0	4.0	7.0	5.0	5.5
涼太	37.4	7.6	1.26	5.0	6.5	4.5	7.0	4.5	7.0
耐病総太り	37.9	7.0	1.23	5.0	7.0	5.0	6.5	4.5	4.5
< H 5年 8月17日播種 10月20日調査 >									
Y R翔太	31.4	7.5	1.32	8.0	8.0	8.0	7.0	7.0	7.0
涼太	35.7	7.9	1.40	6.0	7.0	5.5	6.5	6.5	6.5
耐病総太り	35.4	6.9	1.23	6.0	7.0	6.0	6.0	5.5	7.0
< H 8年 8月14日播種 10月21日調査 >									
Y R翔太	30.8	7.6	1.14	6.0	7.0	6.0	8.0	6.0	7.0
涼太	31.3	7.4	1.16	5.0	7.0	4.5	7.5	5.5	6.0
耐病総太り	35.1	6.8	1.16	5.0	6.5	5.0	7.5	5.5	6.0

注) 評点 根形=9:総太~1:円錐尻流れ 揃い、尻づまり、肌=9:極良~1:極不良
青首=9:極濃~1:極淡 す入り=9:無~1:甚多



写真1 根形がきれいに揃う「Y R 翔太」

地域	作型	月	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地	マルチ			●	●	●	■		
	露地			●	●	●	■		
高冷地	マルチ			●	●	●	■		
	露地			●	●	●	■		
一般地	マルチ				●	●	■		

● 播種期 ●—● 生育期 ■ 収穫期

図1 YR翔太の作型

葉期に間引き終了時点での排水が問題となるので、追肥、中耕、土寄せなどを行い高畦などとし排水対策を講じます。排水不良地では初めから高畦としておくことも一方策です。

元肥は全施肥量の6割、追肥4割とし、肥料の流亡に注意し、後半の肥大を促進させます。

(2) マルチ栽培の場合

アブラムシ予防のため、シルバーマルチを使う場合は適水分条件を確保、維持するため、多湿圃場では高畦栽培とし、多雨時の排水に努めます。逆に排水良好な圃場では、雨を待ってからマルチを張り、播種時の乾燥を防ぎます。

(3) 施肥量

7月中～下旬播きではN、P、K、それぞれ5

—10—10 kg/10 aを標準とします。

8月上旬以降、特にお盆過ぎ以降での播種については、肥大を促すためN、P、K：8—10—10 kg/10 aとしN分を多めとします。

(4) 生理障害対策

生理障害は全く見られないか、ごく少ない品種ですが畑の連作や高温期の作型に入るので、土づくりを励行し、硼砂やFTE等の微量元素を使うのも一つの対策です。

2 Y R 翔太の現地栽培事例

1) 自然条件

(1) 地形

本村は563.04 km²の広大な面積を有し、高低差の中で山林原野が90.1%を占める複雑多岐な地形です。耕地は標高110 mから900 mの中に集中し、ダイコンは500～850 mの範囲で栽培されています。

(2) 地質

比較的単純で、大部分が古生代石灰紀に属する秩父古生層からなり、局地的には花崗岩、蛇紋岩の分布が見られ、腐植に乏しい土壌です。

(3) 気象

閉伊川に沿って東西に連なる地勢から、それぞれの地域の気象条件が異なります。門馬地域は内陸部の裏日本式気候であり、積雪寒冷度の高い地域です。年平均気温6.2℃、平均降水量1,515 mm、無霜期間は154日と厳しい気象条件です。

2) 去石倉蔵さん(63歳)の経営概況(写真2)

昭和35年までは酪農経営が主体でありましたが、



写真2 去石倉蔵氏

交通道路網の整備が進み、盛岡市に近い立地条件が幸いし、労力が比較的少なくても容易にできるダイコン栽培に踏み切りました。

現在、4 ha の野菜経営を行い、ダイコンは2 ha の作付けを行なっています。作物別作付面積は表2のとおりです。

また、去石氏の住む門馬地域の平成8年のダイコン栽培者36名、面積86 ha のリーダー、すなわち農協の野菜生産部会長です。

3) Y R 翔太導入の経緯

当地域での萎黄病は昭和48年ころから散見され、59年から問題になりました。(写真3)

防除対策としては、輪作、抵抗性品種の利用、圃場衛生、土壤消毒など総合的防除がとられてきました。特に抵抗性品種の導入については、当初、早池峰総太り、Y R 五日町、Y R くらまなどを使用してきましたが、内部障害、裂根、発芽、品質、などの問題があり苦慮しました。そこで5年前からY R 翔太の試作を展開し、試作結果が良好であったため導入に踏み切りました。

表2 作物別作付面積

水 稲	0.25ha	
キャベツ	1.00	
白 菜	1.00	
大 根	2.00	
緑 肥	1.75	ヘイオーツの作付
計	6.00	稼働労力2人



写真3 萎黄病に罹された他社品種圃場

4) 栽培の概要

- (1) 播種期 7月13日～18日、露地栽培。
- (2) 栽植密度 畦幅60 cm, 株間24 cm, 真空播種機(1粒)播き, 10 a 当たり6,944本。
- (3) 施肥量

いきいき大根化成(8-18-8)100 kg/10 a, 堆きゅう肥は使用しませんが、前年5月上旬にヘイオーツを緑肥として作付け、7月下旬にすき込んで休閑し、翌年のダイコン作付けとなります。

(4) 緑肥作物の導入

当初は緑肥作物としてソルゴーを導入してきましたが、キタネグサレセンチュウ防除を兼ね、5年前からヘイオーツを2 ha 前後作付し緑肥として活用しています(写真4, 5)。

ヘイオーツへの施肥量はN, 4.2 kg, P₂O₅, 20.4 kg, K₂O, 6.0 kg/10 a であり、草丈80～100 cm に生育したころすき込んで土づくりに専念しています。

(5) ダイコンの品種構成

平成8年の品種別ダイコン作付状況は表3のと

表3 去石氏の大根品種構成

品 種	播 種 期	面 積
喜 太 一	5/27～	10a
春のぞみ	6/3～6/13	30
健 志	6/28～7/10	45
Y R 翔太	7/13～7/18	30
涼 太	7/19～7/27	85
計		200a



写真4 ヘイオーツすき込み直前の生育状況



写真5 緑肥のすき込み風

おりです。Y R翔太は萎黄病の多い圃場に作付しています。主力品種は涼太，健志，Y R翔太，春のぞみの4品種です。

5) 出荷・販売

Y R翔太の出荷は9月上旬より10月上旬になりますが，このころのダイコン単価は安いですが，昨年は1ケース(10kg詰)で高値1,340円，安値で690円でした。収量は10a当たり5,000kgを上回っています。

出荷先は農協で共選されたものを地元盛岡市場，及び仙台市場が主で，「早池峰大根」として銘柄が確立され，市場評価も高いです。

6) 評価

ここ数年栽培して見ての評価を聞いて見ました。まず，草姿はコンパクトで立性，抽苔もなく，根形は総太り型で良く揃い，箱詰めしやすい。首部の青味も涼太より濃く，尻づまりも良好，割れない。問題の萎黄病に対しては今だ発生していない。また，Y Rくらまに比較して軟腐病の発生も少なく，播種後55～60日で収穫でき，栽培しやすい品種で歩留まりが良い。ちなみに，他の品種は75～80%の歩留まりに対して90%はあると言います。欠点としては，早播きしますと抽苔，根部の上部のふくれ，晩播きでは短根になりやすいので適期播種と肥培管理が重要なポイントとなります。

健全な野菜作りを スノーグローエースがサポートします



SNOW GROW ACE

スノーグローエース

バイオの活力で大きく育つ。栽培・新技術で大きく育てる。

根のしっかりした
健苗を育てよう

丈夫な苗作りに
トマト、なす、きゅうり、
ピーマン、メロン、
すいか等。

初期生育を揃え
安定生産を図ろう

作物の生育に
ほうれんそう、にんじん、
だいこん、たまねぎ等。

落花や成りづかれ
を防ごう

増収へ確かな一歩
さやいんげん、さやえんどう、
大豆、菜豆等。

活力を与え生育を
しっかり支えよう

充実した穂に
馬鈴しょ、スイートコーン、
ながいも、さといも等。